令和４年　９月　５日

令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和4年4月19日(火)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	１８人	算数	１８人	理科　１８人
第５学年	国語	１７人	算数	１７人	理科　１７人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

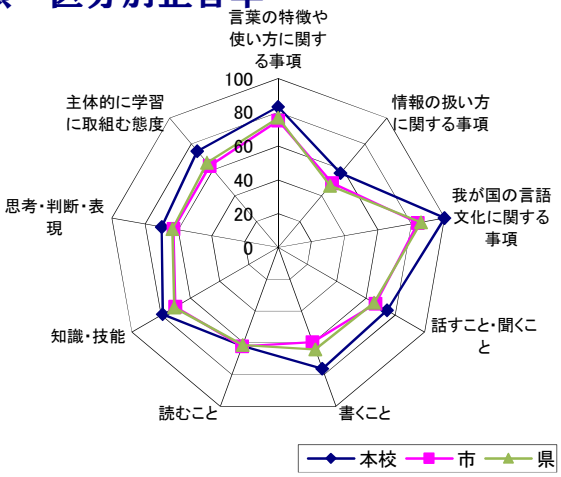
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.3	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	57.4	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	100.0	84.0	85.9
	話すこと･聞くこと	74.4	66.5	65.5
	書くこと	76.4	59.6	64.2
	読むこと	62.0	62.2	61.5
観点	知識･技能	79.0	70.2	71.1
	思考･判断･表現	70.0	62.9	63.6
	主体的に学習に取組む態度	74.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

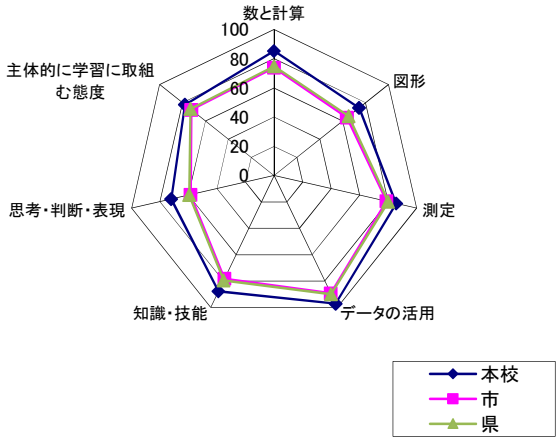
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	正答率は83.3%で，市の平均を上回った。 ○「漢字を読む」設問において，3問のうち，2問は正答率100%，残りの1問も市の平均を上回った。 ○「主語述語の関係」，「ローマ字表記」の設問においても市の平均を上回った。 ●「漢字を書く」設問において，3問のうち2問は市の平均をを上回ったものの，「研究」は市の平均を下回った。	・日々の宿題や自主学習などでも漢字練習の時間を確保する。 ・プリントやノートに書く文章では，既習の漢字は必ず使用することを徹底し，忘れたり間違えたりした漢字は正しく書くことを繰り返し指導することで，既習漢字の定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	正答率は57.4%で，市の平均を上回った。 ○「情報と情報との関係について理解し，中心となる語や文を見付けて要約する」設問において，正答率77.8%で市の平均55.4%を大きく上回った。 ●国語辞典の使い方の設問において，市の平均をやや下回った。	・タブレットで言葉の意味を調べる児童が増えてきているが，辞書を使うことを奨励し，国語科の学習ではもちろんのこと，他の教科でもわからない言葉を辞書で調べることを習慣にする。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は100%で，市の平均を大きく上回った。 ○設問がこの１問しかなかったため，確実に学習内容が定着していると判断するのは難しいと考えられる。	・できるだけ多くの漢字について，国語辞典や図書資料等の利用を通して部首や成り立ちについて理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	正答率は74.4%で，市の平均を上回った。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉える」設問において，正答率100%であった。 ○「互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる」設問において，市の平均を大きく上回った。 ●「相手に伝わるように，自分の考えを，理由を挙げながら話す」設問において，市の平均と同程度だった。	・教科に限らず，授業の中で目的に応じた質問の仕方，相手の意見に関連付けた自分の意見の述べ方などの話型を示し，繰り返し指導していく。また，関連性の高い発言をつなげたり，自分の考えを理由を述べながら伝えたりすることで，話合い活動が充実することを実感させ，よりよい話合い活動の仕方を身に付けられるようにする。
書くこと	正答率は76.4%で，市の平均を大きく上回った。 ○「指定された長さで文章を書いたり，段落の役割について理解し2段落構成で文章を書く」設問において，ともに市の平均を大きく上回った。 ●「自分の考えを明確にして文章を書く」設問において，市の平均をやや下回った。	・字数や段落数などの条件に合わせて文章を書くことについては，定着に大きな個人差が見られる。作文や日記などの指導においては，重点的な個別指導が効果的だと考える。また，授業の振り返りやまとめの際に，文字数制限や段落構成の条件，必須で書く単語や内容の設定を行い，与えられた条件に合致させながら書く経験を今後も積ませていく。
読むこと	正答率は62.0%で，市の平均と同程度だった。 ○「情報と情報との関係について理解し中心となる語や文を見付けて要約する」設問において市の平均を非常に大きく上回った。 ●「場面の様子について叙述を基に捉える」設問において，市の平均を大きく下回った。	・司書教諭と連携しながら，学年・児童の実態に応じた文学作品をより多く紹介するとともに，じっくりと叙述を読む時間を確保していく。また，文章に書かれていることから登場人物の性格や気持ちを推測させるために，朝の読み聞かせの後には「人物の考え方や性格をみんなで考える」などの活動も取り入れていく。

宇都宮市立城山西小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	85.3	73.8	74.8
	図形	74.4	63.7	65.3
	測定	85.6	78.9	80.1
	データの活用	97.2	89.3	90.0
観点	知識・技能	87.8	78.3	79.5
	思考・判断・表現	72.2	58.6	59.5
	主体的に学習に取組む態度	77.8	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

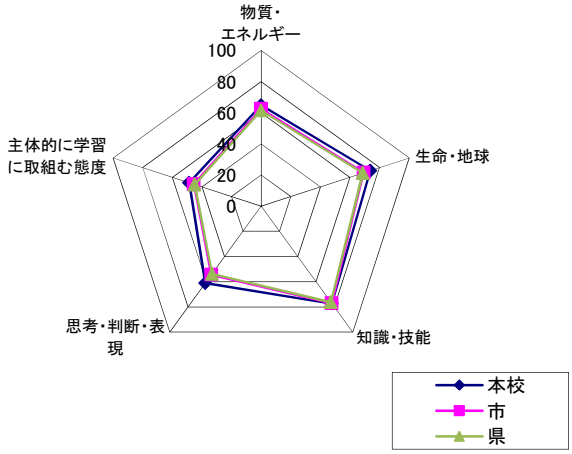
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は85.3%で，市の平均を大きく上回った。 ○「□を使った式」の設問において，県の平均を大きく上回っており，□を使った文章問題と図（数直線）の構造を正しく捉えることができていた。 ●分数の数直線上での表し方の設問において，正答率が県の平均を大きく下回った。また，分数の大きさの設問においても，正答率が県の平均を下回っており，分数の理解に課題があることが推測される。	引き続き計算についての基礎的な知識について再度確認し，確実に身に付けさせるとともに，計算プリントやドリルで定着を図っていく。また，家庭学習や朝の学習，タブレットを活用を通して，適切な課題に取り組ませていく。 分数の学習については，実際に操作活動を通して実感を伴って捉えられるような工夫をするとともに，数直線と結びつけて分数の意味を理解できるように指導していく。
図形	平均正答率は74.4%で，市の平均を大きく上回った。 ○「円の半径」の設問において，正答率が県の平均を上回った。 ●「正三角形の作図」の設問において，正答率が県の平均を大きく下回った。	二等辺三角形や正三角形の性質を復習するとともに，道具としてのコンパスの特性を確認することで，図形の性質の理解をさらに深められるように指導する。また，根拠を基に説明する経験を計画的に積ませていく。
測定	平均正答率は85.6%で，市の平均を上回った。 ○「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める」設問において，正答率が県の平均と同程度だった。 ●「1分＝60秒の関係，道のりの意味」の設問において，正答率がともに県の平均を下回った。	基礎的事項の定着が見られるが，より時間や距離などの量的感覚を身に付けさせるために，身の回りの物の重さや長さをはかる活動を多く取り入れ，体験を通して実感を伴った理解を促していく。
データの活用	平均正答率は97.2%で，市の平均を上回った。 ○「複数の棒グラフを組み合わせてグラフを読む」設問において，正答率が県の平均を上回った。 ●「棒グラフの1めもりの大きさに着目して，間違いを指摘する」記述式の設問において，正答率が県の平均と同程度だったものの，他の設問と比べると低かった。	棒グラフを見て，1目盛の大きさや量を正しく読み取るだけでなく，様々な見方から棒グラフを読み取る力を付けるためには，棒グラフを見て，気付いたことや分かったことを話し合う活動を多く取り入れ，自分の考えを書く機会を設けるようにする。 さらに，算数科だけでなく，社会科や理科の学習内容との関連付けを図り，表やグラフを読み取る力を養いながら，根拠を基に説明する経験を計画的に積ませていく。

宇都宮市立城山西小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.8	62.5	61.5
	生命・地球	73.7	69.2	68.6
観点	知識・技能	77.4	77.2	76.3
	思考・判断・表現	61.1	54.4	53.7
	主体的に学習に取組む態度	48.6	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は，64.8%で，市の平均をやや上回った。 ○「光の性質」の設問において，正答率が市の平均を大きく上回った。 ○「物の重さ」の設問において，正答率が市の平均を大きく上回り，実験の結果から物の形を変えても重さは変わらないことがよく理解できていた。 ●「方位磁針の正しい使い方」と「正午にできる影の方位」の設問において，正答率が市の平均を下回った。 ●「種類の異なる同体積の情報を読み取って推測する」「豆電球が付かない理由を推測する」設問において，正答率が市の平均を下回ったり，正答率が低かったりした。情報や結果から物事を推測することが苦手であると考えられる。	どの単元においても，生活や既習事項と結び付けた導入で，自ら問いを見い出せるよう工夫する。実験前の予想，実験後の結果からの考察の時間を十分に確保し，自分の言葉で説明したり，グループやペアで話し合ったりする学習を大切にしていく。 「実験結果からわかること」や「情報を読み取って推測する」活動を理科の授業の展開に位置付け，「適用」「分析」「構想」「改善」などを意識した「考えること」を経験させていく。 学習内容が未定着の児童に対しては，ICT機器などを活用して該当する内容について復習できる機会を設ける。
生命・地球	平均正答率は73.7%で，市の平均をやや上回った。 ○「モンシロチョウがキャベツの葉にたまごをうむ理由を説明する」設問において，正答率が市の平均を大きく上回り，定着が図られているといえる。 ○「光を重ねた部分の明るさと温度のようすを指摘する」設問において，正答率が市の平均を大きく上回り，「ソーラークッカーで料理ができることを説明する」設問において，正答率が市の平均を上回った。 ●「植物の育ち方」に関する設問において，正答率が市の平均をやや下回った。 ●「こん虫のからだのつくり」に関する設問において，正答率が市の平均を下回った。	昆虫や植物の観察の際は，実物をよく見る活動を行うだけでなく，体験的な活動を取り入れて定着を図る。また，資料等を有効活用し，調べたことを自分の言葉でまとめたり，説明したりする活動を取り入れていく。 記述の問題が苦手な児童へは，表現の仕方の例を示すとともに，事象の理由について考えさせながら，根拠を基に説明する経験を計画的に積ませていく。

宇都宮市立城山西小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

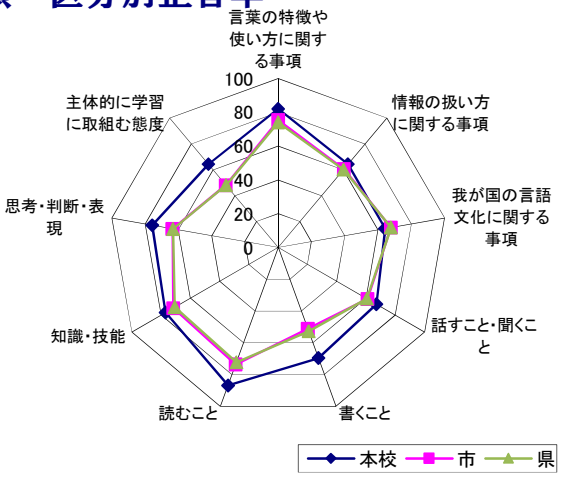
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，テストでまちがえた問題について勉強をしている」の設問において肯定割合が100%で，市の平均を非常に大きく上回った。
○「家で，学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」の設問において，肯定割合が市の平均を大きく上回った。
○「家で勉強するときに，だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の設問において，肯定割合が市の平均を非常に大きく上回った。
○「学校の宿題は自分のためになっている」の設問において，肯定割合が１００%で，市の平均を上回った。
○「勉強をしていて，おもしろい，楽しいと思うことがありる」「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」の設問において，肯定割合が市の平均を上回った。
○「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の設問において，肯定割合が市の平均を下回っており，書くことに対する抵抗感は低いということがうかがえる。
○「友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができている」「学校のきまりを守っている」の設問において，肯定割合が100%で，市の平均を上回った。
○「テレビやDVD，動画を見る時間について」の設問や，「テレビを見る時間」についての設問において，いずれも利用時間が市の平均を大きく下回った。
○「家の人と将来のことについて話すことがある」の設問において，市の平均を上回った。
○「次の教科などの学習は，将来のために大切だと思いますか」の設問において，算数科の肯定割合が100%で，市の平均を上回った。学習して身に付けたことは，しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の設問において，肯定割合が市の平均を大きく下回った。
○「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の設問において，肯定割合が市の平均を上回った。
●「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の設問において，肯定割合が市の平均を下回った。学習に対して熱心な家庭が多く，保護者の声掛けが日常的にあることから，このような結果になった可能性がある。今後，児童が自主的に取り組みたいと思える学習課題の提示ができるよう努めていく。
●「将来の夢や目標をもっている」の設問において，肯定割合が市の平均を大きく下回った。総合的な学習や特別活動を中心に，キャリア教育の視点をもって指導に当たり，将来の展望が持てるよう働きかけていく。また，自己肯定感を高める取り組みを積極的に行い，挑戦してみようと思える精神的な強さも涵養していきたい。
●「次の教科の授業内容はよく分かりますか」「次の教科などの学習は，将来のために大切だと思いますか」の設問において，社会科の肯定割合が市の平均を下回った。学習した内容が自己の生活や今後の暮らしに密接にかかわっていることが意識できるような導入や振返りをしていく。
●「国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気を付けて書いている」の設問において，肯定割合が市の平均を大きく下回った。自分の考えを書くことに苦手意識を感じている児童は少ないが，「意図を明確にして」書くという点に意識している児童は少なかったことによる結果であると考えられる。授業での発言や朝のスピーチなどの際に意図が伝わるよう助言し，徐々に書くことにも移行させていく。

宇都宮市立城山西小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.1	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	64.3	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	64.3	67.7	67.8
	話すこと･聞くこと	67.1	61.0	60.7
	書くこと	69.6	51.2	52.8
	読むこと	86.9	73.7	72.4
観点	知識･技能	77.0	71.7	70.6
	思考･判断･表現	75.7	63.5	63.2
	主体的に学習に取組む態度	64.3	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

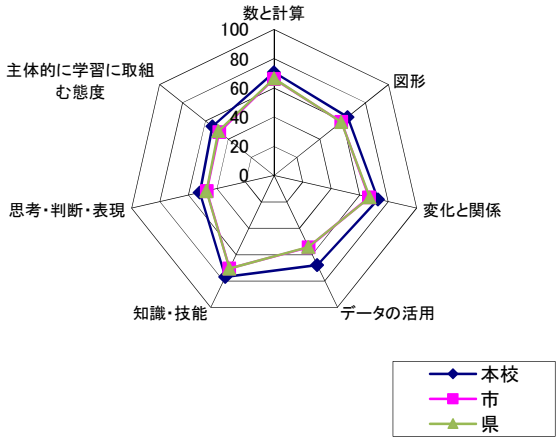
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は82.1%で，市の平均を上回った。 ○「漢字の読み書き」の設問において，6問すべての正答率が市の平均と同程度か，大きく上回り，そのうち4問において正答率が100%であった。 ●「文中の連体修飾語を問う」設問において，市の平均を下回った。	引き続き，新出漢字をしっかりと覚え，定着させるために，使い方や，他の読み方，熟語などを習得できるよう指導していくとともに様々な授業や活動で習得した漢字を活用できる場面を設定していく。また，修飾語やことわざ等の言語事項については，定期的に授業や家庭学習で扱い，習熟を図る。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，64.3%で，市の平均をやや上回った。 ○「情報と情報との関係について理解し，中心となる語や文を見付けて要約する」設問や，「漢字辞典の使い方」の設問において，市の平均を上回った。 ●「情報と情報との関係について理解し，理由や事例などを挙げながら話す」設問において，市の平均と同程度ではあったが，正答率が35.7%に留まった。	記述問題における正答率の高さや無答が少なかったことは，授業の終末や，単元末において，振り返り活動を充実してきた成果だと考えられる。情報の扱い方については，国語の授業だけでなく他教科･領域の学習でも指導する機会をもち，複数の情報をもとに考え，理由を示しながら考えたことを表現する機会を多く設けていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，64.3%で，市の平均をやや下回った。 ●「ことわざ」の設問において，意味を正しく知り，使うことができていた児童もいた一方で，ことわざの意味を正しく理解していない児童も見られた。	国語の授業においてことわざや慣用句について取り上げるとともに，日常生活の中で教師自身が場面に応じたことわざや慣用句を使用していく。また，自主学習でことわざや慣用句について調べたりまとめたりする児童が多くいるため，その活動を称賛し，学級で全体で共有していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，67.1%で，市の平均を上回った。 ○「司会の役割を果たしながら話し合い，意見の相違点に着目して考えをまとめる」設問において，市の平均を非常に大きく上回った。 ●「調査の結果をもとに意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる」約半数の児童が正しい選択肢を選べなかった。	普段の授業において児童全員が本時のめあてをしっかりと理解した上で学習課題について話し合う機会を継続的に設ける。また，学校全体で取り組んでいる「聞き方かきくけこ」についても再度確認しながらさらに児童への定着を図っていく。学級活動の話合い活動においては，司会や書記などの役割分担をし，意見や考えをまとめる経験をさせていく。
書くこと	平均正答率は，69.6%で，市の平均を大きく上回った。 ○「指定された長さで文章を書く」設問や「内容の中心を明確にし，事実を伝える文章を書」く設問において，市の平均を非常に大きく上回った。	設問からわかることを指定された条件に合わせながら文章化することは大変よくできている。今後も各教科･領域･諸活動において自分の考えを書いて表現する機会を確保し，児童の書く力を高めていく。
読むこと	平均正答率は，86.9%で，市の平均を大きく上回った。 ○「登場人物の気持ちを叙述を基に捉える」設問や「叙述を基に段落相互の関係を捉える」設問において市の平均を非常に大きく上回った。	読むことに関する設問の正答率の高さは，これまで行ってきた読書推進活動をはじめとする教育活動の成果だと考えられる。今後も児童が様々な文章や表現に触れ，言語感覚を豊かにする機会の充実を図っていく。

宇都宮市立城山西小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.7	66.1	66.4
	図形	64.3	58.9	58.8
	変化と関係	72.9	66.6	67.0
	データの活用	67.9	54.4	54.2
観点	知識・技能	76.9	70.4	70.6
	思考・判断・表現	52.1	47.2	47.5
	主体的に学習に取組む態度	54.1	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

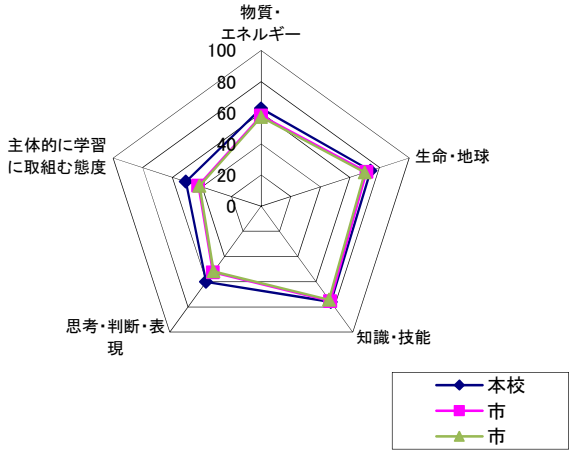
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，70.7%で市の平均をやや上回った。 ○「数の相対的な大きさ」の設問において，正答率が市平均を非常に大きく上回った。 ●「千の位までの概数の表し方」の設問において，正答率が市平均を大きく下回った。	基礎，基本となる計算はできている傾向にあるため，引き続き計算ドリルやプリントを利用し，練習問題に取り組ませ，知識の定着を図っていく。 また，概数の表し方や概数の範囲についての理解が不十分であるため，位取り表を活用して概数の表し方を再確認したり，「未満，以上，以下」の意味を数直線を使って確認したりして，視覚的に意味が理解できるよう指導していく。
図形	平均正答率は，64.3%で市の平均を上回った。 ○「平行四辺形の作図」の設問において，正答率が市平均を大きく上回った。 ●「教室のおよその面積」の設問において，正答率が市平均を下回った。	数字から具体的な大きさを想像することが苦手な傾向があるため，実際にものを測る体験を通して，長さや大きさを想像できるよう指導していく。また，面積の単位の関係についても1㎡が10000㎠という単位の変換の正答率が低かったため，単位の変換の求め方を再度確認と指導を行う。1㎡や1㎠の実際の大きさを示し，単位の違いを具体的に想像できるように体験を積ませる。
変化と関係	平均正答率は，72.9%で市の平均を上回った。 ○「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」設問において，正答率が市平均を上回った。 ●「基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ」設問において，正答率が市平均をやや下回った。	文章から分かることを，自分で図や数直線に表すことができるよう，普段の授業から自分の考えを書く指導を行う。その図や数直線から立式をさせるようにし，感覚で立式するのではなく，根拠をもって立式させるように指導する。文章問題の内容理解ができるよう，日々の授業でも文章問題の理解を徹底して行うようにする。
データの活用	平均正答率は，67.9%で市の平均を大きく上回った。 ○「図書室を，先週利用した人数と，今秋利用した人数の違いを求めるのに必要な二次元表の欄を示し，その求め方を説明する」設問において，正答率が42.9%ではあるものの，市平均を非常に大きく上回った。 ●「折れ線グラフから変わり方を読み取る」設問において，市平均をやや上回ってはいるが，正答率が57.1%で，他の設問に比べると低かった。	折れ線グラフの読み方を再度確認する。変化を確実に読み取るために，見直しを行うように指導する。 市平均から22.3%上回ってはいるが，二次元表から必要な情報の求め方が苦手な傾向にあるため，表が表していることを一つ一つ理解し，理解したことを友達に説明する等の活動を授業で設定する。また，データを読み取る問題を朝学習や宿題で定期的に取り組むようにする。

宇都宮市立城山西小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の市，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	市
領域等	物質･エネルギー	62.8	58.1	57.2
	生命･地球	73.9	71.1	70.0
観点	知識･技能	76.1	75.5	74.4
	思考･判断･表現	60.2	52.7	51.9
	主体的に学習に取組む態度	50.8	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は62.8%で，市平均をやや上回った。 ○「物のあたたまり方」の，水槽のヒーターを取り付ける位置や，金属のあたたまり方，あたたまった空気の動き方などを問う設問において，市平均を大きく上回った。 ○「水のすがた」の予想が正しかった場合に得られる実験の結果を構想する設問において，正答率78.6%と，市の正答率を非常に大きく上回った。 ○「物の体積と温度」の気泡シートが閉じ込められた空気のどのような性質を利用しているか説明する設問において，正答率78.6%と市平均を非常に大きく上回った。 ●「電気のはたらき」の乾電池の向きを入れかえたときの，車の進む向きを問う設問において，正答率42.9%と，市平均を大きく下回った。	実験の際には，調べたいことを明確にし，そのためにはどのような実験を行えばそれが明確になるのかを考えさせていく。また，記録する際には，数値だけでなくそのときの状態や気付きなども書き留めておき，考察に生かすようはたらきかけていく。実験･観察を通して，様々な視点から見つめることの重要性に気付かせ，科学的な事物現象のつながりに目が向けられるようにする。 電気についての学習では，モーターカーやプロペラカー等の実験を十分に行い，気付いたことについて絵や図を交えながらまとめることで，視覚的にも電流の様子を的確に捉えさせる。
生命・地球	平均正答率は73.9%で，市平均をやや上回った。 ○「１年間の植物の成長」の設問におい，どの問題も市平均を上回り，特に「気温の変化のグラフとヘチマのくきののび方を関係付ける」設問においては，市平均を大きく上回った。 ○「動物のからだのつくりと運動」の腕を曲げたときの筋肉の様子を選ぶ設問では，正答率85.7%と，市平均を非常に大きく上回った。 ○「自然の中の水」の日なたに置いた水の量が減る理由を選ぶ設問では，正答率100%と市平均を大きく上回った。 ●「１年間の動物のようす」のオオカマキリの冬の越し方を問う設問では，正答率71.4%と市平均を大きく下回った。	引き続き，予想，実験･観察，結果，考察の過程を大切にし，それらを日常の事象と結び付けて考え，理解の定着を一層図っていく。また，実験や観察の技能について指導する機会を適宜確保し，実験や観察の技能を高めていく必要がある。予想に反する結果が出た場合には，結果を十分検討し考察することで，新たな視点を見つけ，理解を深めるきっかけにしていく。 「月と星」や「天気のようすと気温」の単元も，市に比べて正答率が良いわけではないので，日々の天体や天気の様子を児童と共有しつつ，学びを深めていく。 国語や算数と違い，朝の学習で時間をとられることもなく，宿題にも出されにくいので，タブレット端末によるAIドリル等を用い，基礎的な知識を積み重ねることが重要である。

宇都宮市立城山西小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の予習をしている」の肯定的割合が92.9%と，県の平均を非常に大きく上回った。
○「家で，学校の授業の復習をしている」の肯定的割合が85.7%と，県の平均を非常に大きく上回った。
○「家で，テストでまちがえた問題について勉強をしている」の肯定的割合が92.9%と，県の平均を非常に大きく上回った。
○「１か月に，１１冊以上本を読む」の割合が64.3%と，県の平均を非常に大きく上回った。
○「勉強していて，不思議だな，なぜだろうと感じることがある」の肯定的割合が100%と，県の平均を大きく上回った。
○「ぎ問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」の肯定的割合が85.7%と，県の平均を非常に大きく上回った。
○「グループなのでの話し合いに自分から進んで参加してる」の肯定的割合が100%と，県の平均を非常に大きく上回った。
○１日あたりのゲーム時間は「１時間より少ない」，「全くしない」の割合がともに35.7%と県の平均を下回った。
○「携帯電話やスマートフォンを持っていない」の割合が64.3%と，県の平均を大きく下回った。
○「むずかしいことでも，失敗をおそれないでちょう戦している」の肯定的割合が100%と，県の平均を非常に大きく上回った。
○「算数の問題を解く時間は十分だった」の肯定的割合が85.7%と，県の平均を非常に大きく上回った。
○「歴史上の人物やできごとをあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」の肯定的割合が85.7%を，県の平均を非常に大きく上回った。
○「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の肯定的割合が93.8%と，県の平均を非常に大きく上回った。
○「自然やうちゅうなど，科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」の肯定的割合が100%と，県の平均を非常に大きく上回った。
●「家で学校の宿題をしている」の肯定的割合が92.8%と，県の平均を下回った。本校はほとんどの児童が放課後は桜スクールで過ごしており，保護者が迎えに来るまでの間に宿題を済ませている児童が大変多いための結果と考えられる。宿題への取り組み状況は大変良好なため，今後も家庭・桜スクールと連携して学習習慣の定着に努めていく。
●「毎日，朝食を食べている」の肯定的割合が85.7%と，県の平均を下回った。養護教諭や栄養士とも連携を図り，朝食を摂ることを基本的な生活習慣の一つとして指導に当たっていく。
●「しょう来のゆめや目標をもっている」の肯定的割合が78.5%と，県の平均を下回った。総合的な学習や特別活動を中心に，キャリア教育の視点をもって指導に当たり，将来の展望が持てるよう働きかけていく。

宇都宮市立城山西小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習指導の工夫改善	・授業における効果的な導入や発問の工夫 ・児童に学習課題をはっきり理解させ，見通しをもって課題にじっくり取り組ませる授業展開の工夫 ・授業終末または単元末の振り返り活動において，学んだこや考えたことを的確に表現する機会の充実 ・既習事項や他教科の学習・実生活との関わりを意識した学習の実施	・ほとんどの児童に基本的な生活習慣が十分身に付いていると考えられる。 ・多くの児童が授業の予習をしていたり，テストでまちがえた問題を家で復習したりしており，良好な学習習慣が身に付いていると考えられる。 ・各教科とも基礎的な問題での誤答が散見された。 ・記述式の回答において，5年生では市の平均正答率を上回るものが多く，児童が自分の考えを表現する力を十分身に付けていたと考えられる。
学びに向かう力の育成・個のよさを伸ばす学習指導の展開	・ハンドサインを活用した授業の展開 ・教師のコーディネート力の向上 ・朝の学習における個別支援の充実 ・一人一台端末を活用した学習の個別最適化 ・特別活動と各教科等を関連させたキャリア教育の推進	・「勉強していて，不思議だな，なぜだろうと感じることがある」と答えた児童が非常に多く，学習したことを生活や将来に役立つと考えている児童も多かった。 ・学年により学習意欲に差はあるが，一人で課題解決を試みたり，難しい問題に挑戦したりする意欲が見られた。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・4年生の国語科において，叙述をもとに考えたり，意図を明確にして自分の考えを記述したりすることに苦手意識が感じられた。 ・どの教科においても，基礎的な事項の定着が不十分な児童がわずかに見られた。	・基礎的な学習内容の定着を再度徹底するとともに，朝の学習や宿題を活用して「書くこと」の指導をしていく。 ・教科間および，単元どうしのつながりを指導者も学習者も十分意識して学習に取り組む。	・算数の授業開始時に，短時間で取り組める計算問題を毎回行い，基礎的な計算力の徹底を図っていく。 ・国語の授業開始時には，各学級で工夫して漢字の定着を図るための学習が進められているので，担任間で情報共有を図り実践を広げていく。 ・「書くこと」において，根拠をもって読み取ったり，意図を明確にして自分の考えを記述したりすることに苦手意識が感じられた。